

イネいもち病(葉いもち) の発生予察に 「クロップナビ」が有効である

農業試験場

1 技術の要約

「クロップナビ」は葉いもちの感染予測が可能な、ほ場設置型の気象観測装置です。気温、降水量などから感染予測を行い、その結果をほ場で知ることができます。

2 技術の内容

いもち病はイネの最も重要な病害で、年により大きな被害を及ぼします。いもち病(葉いもち)の発生しやすい気象条件を把握することは、防除対策上とても大切なことです。

「クロップナビ」は気温センサ、雨量計、濡れセンサでほ場の微気象を観測し、葉いもちに感染しやすい条件かを内蔵したマイコンで判定します。その結果は液晶画面で見ることができます。

現在、「クロップナビ」は、県下に100台以上設置されており、地域の葉いもちの監視に有効に利用されています。

気象条件が大きな要因となるイネの生育進度や冷害、高温障害の予測、さらには他作物、他病害への応用の可能性が高く、汎用性の高さも特徴のひとつです。



写真1 水田に設置された「クロップナビ」

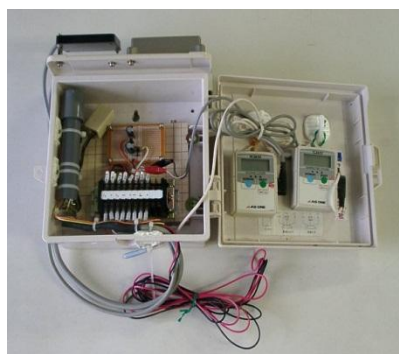


写真2 液晶画面メインメニュー(上)と判定結果(下)



写真3 イネいもち病 左より葉いもち、穂いもち、圃場全面に発生した穂いもち

発生予察支援装置からクロープナビへ



農事試験場

発生予察支援装置 H17普及技術

市販データロガー(気温、電圧)、雨量計、濡れセンサー等で構成

機能拡充し、汎用性を高める！

作物栽培支援装置(クロープナビ)

(株)アスザックとの共同開発 農事・農総試

ーコンセプトー

1. 圃場設置型。作物栽培管理に必要なデータをそのまま解析・表示。簡単、その場で情報活用(小型コンピュータ内蔵、ディスプレイ表示)
2. どんな場所でも手軽に設置。軽量・小型・安価
3. イネ以外の作物でも応用可能、高い汎用性。
4. 様々な予測理論の精度向上、新たな予測理論の基礎データ取得

いもち病感染警報

○月○日感染条件
現在、発生が見られている
圃場では防除を強化してく
ださい。

冷害予測・高温障害回避

冷害危険水準 高
深水管理をしてください。

出穂期・収穫期予測

現在積算気温950日℃
収穫適期 9月26日頃
(帯緑色籾率△%収穫適期)

